

畜産茨城

第476号

平成31年1月31日



目次

新銘柄豚肉「常陸の輝き」販売開始 … 1	平成30年11月市況 …………… 6
行方市の(有)中村畜産が養豚で 本県初のJGAP取得…………… 2	肉用子牛生産者補給金・ 肉用牛繁殖経営支援事業発動状況 …… 6
「奥久慈しゃも」の地理的表示(GI) 保護制度への登録について …… 3	平成30年12月市況 …………… 7
生豆腐粕サイレージを用いた SGSの調製方法について…………… 4	牛マルキン発動状況 …………… 7
県西管内におけるBVD・PI牛の 発生状況について…………… 5	第20回県南肉用牛枝肉共励会が 開催されました…………… 8

発行所／茨城県水戸市梅香1丁目2番56号
公益社団法人茨城県畜産協会
電話 029(231)7501
URL <http://ibaraki.lin.gr.jp>
発行人／佐野 治

新銘柄豚肉「常陸の輝き」販売開始



昨年の12月17日、「常陸の輝き」の販売が開始されました。「常陸の輝き」は、茨城県畜産センター養豚研究所が5年の歳月を費やして作り上げた系統豚「ローズD-1」を父豚に持つ三元豚を、専用の飼料でじっくり肥育してできた豚肉で、筋肉中の脂肪含有量や脂肪中のオレイン酸含有量が高く、あっさりとした豚臭さがない豚肉に仕上がっています。昨秋の各イベントでの試食会では、美味しい、柔らかい、ジューシー等々、いずれも高い評価が

あり、販売開始前から多くの販売店、飲食店から引合いがありました。

販売開始当日は、県のアンテナショップ「IBARAKI sense」でメディア向け試食会を開催、そして「常陸の輝き」を使った特別メニューが提供される「常陸の輝きフェア」が12月30日まで開催されました。

2020年度中に30,000頭、最終的には年間70,000頭の生産を目指しています。

地方競馬の収益金は畜産の振興に役立てられています

行方市の(有)中村畜産が養豚で本県初のJGAP取得

茨城県鹿行農林事務所 振興・環境室 矢口 勝美

はじめに

銘柄豚肉「^{びめいとん}美明豚」で知られる、(有)中村畜産(代表中村一夫氏、行方市)が、平成30年11月に養豚では本県初のJGAP*を取得しました。

JGAPの取組みにより、食品の安全性の向上、環境の保全、労働安全の確保、競争力の強化、品質の向上、農業経営の改善等に資することができます。消費者の信頼が確保できることが期待されます。



家族様

経営の概要

代表の中村氏は、昭和53年、両親が経営していた養豚肥育経営に就農しました。平成9年、



肥育豚舎(スクレーパーで除糞する方式)

本人が経営の主軸となるなかで、薬剤費等の節減と安全な豚肉の供給を目指すため、養豚の生産性を阻害する特定の病原体を排除したSPF豚に着目し、SPF母豚導入に必要な育成豚舎と繁殖豚舎を整備し、一貫経営に転換しました。

この結果、衛生的な飼育環境が維持され、繁殖成績や肥育成績が当初計画を大きく上回り、規模拡大が円滑にできることとなりました。

さらに、平成14年には、分娩豚舎と肥育豚舎を増頭しSPF認定農場を取得しました。

現在では、作業労力は本人夫婦、ご子息2人、ほか7人で、飼養頭数は、繁殖豚450頭、肥育豚2,900頭、ほか育成豚、子豚で計約5,800頭

となっております。

また、平成12年に糞尿処理時間の削減と良質堆肥を生産するため、埼玉式KSコンボを1台から2台に増設し、畜舎排水処理施設(複合ラグーンシステム)を新たに設置して、地域に調和した環境保全に努めています。



埼玉式KSコンボ



複合ラグーンシステム

JGAPの取組及び飼料の工夫

中村氏は、外国産豚肉の輸入増や国内産地間競争が進む状況のなかで、今後、国産豚肉にはJGAPの取組みが必要と感じ、また、大手取引先からも同様の意見が得られたことから、JGAPの取組みを決めたとのことです。

JGAPの取組みにあたり、これまで、SPF養豚で衛生的管理に取組んできた背景もあり、取組みのための施設条件面は、ほぼ満たしていたとのことです。

しかし、申請書類作成に当たり—①畜産現場が継続的に実施可能な内容②畜産物の買い手側から信頼を得られる基準③外部からチェック可能な透明性のある内容—が求められたことから、わかり易く伝えることの難しさを感じたとのことで、ご子息(2人)の協力が不可欠であったとのことです。

JGAPに取組んだ結果、作業面では、生産工程の各段階においてチェックすべきことが明確になったので、作業員全員で作業内容の共有化が図られて、各人の作業分担が円滑になり作業の効率化が図られたとのことです。

一方、飼料については、安全で美味しい肉を生産するために、大麦重視の配合に、乳酸菌、ビフィズス菌、納豆菌、海藻、パイナップル粉末、ウコン、酒かす等をバランス良く配合し、混合

飼料として特許を取得しております。

おが粉豚舎で一部の肥育豚を飼養しておりますが、乳酸菌、ビフィズス菌等による腸内環境改善の効果もあって、衛生費が少なく済み、寄生虫の発生はないとのこと。

おわりに

これまで飼料の工夫のほか、衛生対策や豚肉の安全性について様々な取り組みを行ってきた結果、健康に育った美味しい豚肉が生産され、茨城県豚枝肉共励会では農林水産大臣賞を通算14回受賞しております。

今後もJGAPを取組んでいくとともに、常に消費者の意見を聴く機会を設けて改善に努め、

肉質は柔らかく、ジューシーですが、しつこくなく、脂に甘みがある豚肉を念頭に生産していきたいとのこと。

※JGAP

食の安全や環境保全に取り組む農場について第三者が認証する制度です。養豚の場合は、「農場の見える化」、「経営者の責任」、「計画及び実績評価」、「飼養衛生に関する管理」、「生産工程におけるリスク管理」、「食品防御」、「商品管理」など農場管理についての31項目と、それをさらに細かく分類した113のチェックリストのクリアが必要です。

「奥久慈しゃも」の地理的表示 (GI) 保護制度への登録について

農事組合法人 奥久慈しゃも生産組合

県北地域（大子町、常陸大宮市、常陸太田市及び高萩市）において生産されている「奥久慈しゃも」が、平成30年12月27日（木）に「特定農林水産物等の名称の保護に関する法律（地理的表示法）」に基づく地理的表示（GI）保護制度に登録されました。

地鶏（鶏肉）として全国初の登録であり、茨城県内では江戸崎かぼちゃ、飯沼栗、水戸の柔甘ねぎに続き4番目の登録となります。

1. 奥久慈しゃもGI登録

- ・登録年月日：平成30年12月27日
- ・登録番号：第71号
- ・申請者：農事組合法人
奥久慈しゃも生産組合
代表理事 益子実津雄

2. 奥久慈しゃもの特性

- ・茨城県畜産センター（旧養鶏試験場）が選抜した闘争生の低い軍鶏種と、名古屋種及びロードアイランドレッド種を交配した、肉質の良い地鶏です。
- ・県北地域のストレスの少ない飼育環境下で、低カロリーの専用飼料と良質な水を給与し、低密度飼育で良く運動させながら長

期間かけてじっくり飼育しています。

3. 奥久慈しゃもの評価

- ・軍鶏の肉質を引き継いでおり、その特性を活かす飼育方法の徹底により、肉は身がよく締まり肉汁が豊富である。また、脂肪が少なく歯ごたえがあり、鶏特有の臭みがほとんど感じられないと評価されています。
- ・一元的な生産管理により、生産者間の技術のバラツキが少なく、日齢を揃えた出荷を実施していることから、品質が常に一定であるとの実需者の評価を得ています。



生豆腐粕サイレージを用いたSGSの調製方法について

茨城県畜産センター飼養技術研究室

1. SGSについて

飼料用米は水田を活用して飼料生産を行うことができ、かつ価格が高騰する配合飼料の代替として注目されています。中でも、家畜の嗜好性や保存性を高めたソフトグレインサイレージ（以下、SGS）は糊熟期～黄熟期の水分含量が比較的高い時期に収穫した軟らかい粳米をサイレージ調製したものを指します。

畜産センターでは、平成27年度から今年度にかけてSGS調製および乳用育成牛への給与と技術の検討を行っています。今回は、食用として使われずに廃棄されていた生豆腐粕と飼料用粳米とを組み合わせ、比較的小規模農家でも使い易い60LサイズのSGSに調製する方法をご紹介します。

2. SGSの調製方法について

(1) 原材料・機器

- ・飼料用粳米（収穫後の水分含量が高いもの）
- ・生豆腐粕サイレージ（とうふかす発酵飼料：株式会社マメックスより入手。以下、生豆腐粕S）
- ・ポリビニール袋（90L）
- ・脱酸素剤
- ・防腐剤
- ・ビニールひも
- ・漬物樽（60L）
- ・飼料用米破砕機
- ・飼料攪拌機

(2) 調製方法

- ①飼料用米破砕機で約2mmに粉砕した粳米と生豆腐粕の水分率を測定し、配合割合を決定します。生豆腐粕Sは水分率が高いため、加水作業を省くことができます。平成29年度は粳米：生豆腐粕Sを8：2の割合で調製しました。
- ②飼料攪拌機を用いて粳米と生豆腐粕Sを均一になるよう攪拌させます。その他に添加するものはありません。生豆腐粕Sには、すでに

乳酸菌が添加されているので、乳酸菌の添加作業も不要です。

- ③60Lの漬物樽にポリビニール袋を2重にかぶせ、中の袋に攪拌したSGSを入れます。
- ④封をする前に、脱酸素剤（2シート）と防腐剤（1シート）を入れます。これらの品質保持剤を加えることで、袋内に残る酸素を吸収するため、部分的なSGSの劣化やカビの発生を防ぎ、良質な発酵（嫌氣的発酵）を促進し、長期保管が可能となります。
- ⑤ビニールひもで中の袋と外の袋をそれぞれ縛ります。品質保持剤を封入してありますので基本的にカビの発生は防げますが、心配な方はここで空気を出して縛った方が安心です。しっかりと密閉されるよう縛ることが、高品質なSGSを作る上で重要です。また二重で縛っているため、ピンホールが発生した際の保険にもなります。
- ⑥最後にふたをして、直射日光の当たらない場所で、常温で保管しておきます。2ヶ月ほど置けば、発酵が良く進んだSGSの完成です。保存環境にもよりますが、1年ほどなら品質は持続します。



◀写真1
中の袋を縛り、密閉したSGS（調製方法⑤）



写真2▶
発酵が進み、完成したSGS（調製方法⑥）

県西管内におけるBVD - PI牛の発生状況について

茨城県県西家畜保健衛生所

1 はじめに

牛ウイルス性下痢・粘膜病（BVD-MD）はBVDウイルス（BVDV）の感染により呼吸器症状、下痢、異常産、繁殖障害等をおこす疾病（届出伝染病）であり、感染した際の症状は一過性ですが、妊娠牛が感染すると、持続感染牛（PI牛）を分娩する場合があります、農場の生産性を低下させ経済損失を招きます。

2 県の取り組み

茨城県では、農水省の「牛ウイルス性下痢・粘膜病に関する防疫対策ガイドライン」に基づき平成29年度からPI牛を摘発するための検査を開始しております。取組内容は、県内の全乳用牛飼養農家を対象としてクーラーステーションで乳汁を採取し、PCRとエライザ抗体検査を実施しております。

また、牛定期検査の保存血清についてもエライザによるBVDV抗体検査・抗原検査（平成29年度までは乳用牛）、プール血清でのPCRによるBVDV抗原検査（平成29年度からは繁殖和牛）を実施しております。

3 県西家保管内の結果

平成29年度の実績では全66農場のバルク乳のうち、PCR+、抗体+が1農場、PCR+、抗体-が1農場、PCR-、抗体+が4農場となり、計6農場でPI牛の存在が疑われました。そのためそれぞれの農場において、乳汁の再検査や農場での全頭抗原検査を実施したところ、3農場から5頭（成牛2頭、子牛3頭）のPI牛を摘発し

ました。またその後の農場追跡検査で出生子牛のBVDV抗原検査を実施したところ、1農場から2頭のPI牛を摘発し、平成30年度までに清浄化を達成しました。

牛定期検査対象牛（547頭）からは1農場でPI牛1頭（育成牛）を摘発し、平成30年度に清浄化を達成しました。

平成30年度の実績では全62農場のバルク乳のうち、10農場でPCR-、抗体+となり、PI牛の存在が疑われたため、乳汁の再検査や農場での全頭抗原検査を実施したところ、1農場から1頭（育成牛）のPI牛を摘発しました。現在、農場の追跡調査で出生子牛のBVDV抗原検査を継続して実施しています。（牛定期検査対象牛（繁殖和牛171頭）については今後検査実施予定。）

PI牛の摘発にあたっては家畜生産農場清浄化支援対策事業（畜産協会事業）にて淘汰推進のための更新費を交付し、支援しております。

4 おわりに

今回PI牛を摘発した農場では、本牛（PI牛）の泌乳量低下や繁殖障害、下痢等による発育不良及び同居牛の繁殖障害（妊娠鑑定後の流産の続発）が認められた例があり、牛群の生産性を低下させていたことがわかりました。

当所管内は、県内でも初妊牛導入や県外での預託放牧が多く、BVDVが侵入する可能性が高いと考えられます。このようにバルク乳や血清を用いたBVDV検査を実施することで早期にPI牛を摘発することが可能であるため、今後も継続して取り組んでいきます。また、外部から農場へ牛を導入する際は家保で検査の依頼を受けますのでご連絡ください。

平成30年11月市況

子豚市場

全農茨城県本部 子豚市場

開催日	区分	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)	平均体重(kg)
14	一般子豚	36	15,876	15,552	15,720	50
	ベビー豚	282	16,524	12,852	14,791	35
28	一般子豚	43	17,604	16,200	16,845	50
	ベビー豚	248	15,984	13,500	14,720	35

牛市場

全農茨城県本部 家畜市場

開催日	畜種	性別	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)	平均体重(kg)	kg当たり単価(円)
14	和牛	♀	64	886,680	339,120	650,244	285	2,284
		♂	1	528,120	528,120	528,120	319	1,656
		去計	92	1,032,480	559,440	788,635	312	2,525
		計	157	1,032,480	339,120	730,562	301	2,426
	経産	7	720,360	81,000	385,406	-	-	
	F1	♀	0					
	♂	0						
	去計	0						

種豚オークション

全農茨城県本部 子豚市場

開催日	区分	L		W		D		LW	WL
		♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂
9	入場頭数	7	0	0	3	0	13	13	0
	成立頭数	6			2		6	6	
	最高(円)	81,000			55,080		111,240	64,800	
	最低(円)	48,600			54,000		59,400	51,840	
	平均(円)	68,040			54,540		78,840	62,640	

大子町畜産農業協同組合 大子家畜市場

開催日	畜種	性別	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)	平均体重(kg)	kg当たり単価(円)
16	和牛	♀	26	1,122,120	470,880	724,929	262	2,757
		♂	0					
		去計	42	1,050,840	605,880	797,682	286	2,787
		計	68	1,122,120	470,880	769,865	277	2,776

茨城県家畜商業協同組合 茨城県中央家畜市場

畜種	年齢	性別	開催日			
			5, 9, 15, 19, 25, 29	最高(円)	最低(円)	平均(円)
乳牛	スモール	♀	4	183,600	72,360	105,300
		♂	136	205,200	1,080	144,736
		去計	1	162,000	162,000	162,000
	子牛	♀	2	226,800	221,400	224,100
		♂	0			
		去計	2	226,800	221,400	224,100
F1	スモール	♀	67	279,720	21,600	219,079
		♂	61	365,040	97,200	299,160
		去計	128	365,040	21,600	257,243
	子牛	♀	1	216,000	216,000	216,000
		♂	1	292,680	292,680	292,680
		去計	1	216,000	216,000	216,000
黒毛和種	スモール	♀	0			
		♂	1	650,160	650,160	650,160
		去計	0			
	子牛	♀	1	216,000	216,000	216,000
		♂	1	21,600	21,600	21,600
		去計	2	216,000	21,600	216,000
黒毛和種	スモール	♀	0			
		♂	1	650,160	650,160	650,160
		去計	0			
	子牛	♀	0			
		♂	1	568,080	568,080	568,080
		去計	1	568,080	568,080	568,080
3歳以上	♀	2	236,520	152,280	194,400	
	♂	0				
	去計	2	236,520	152,280	194,400	

食肉地方卸売市場

株茨城県中央食肉公社

開催日	豚枝肉；日曜、祭日を除く毎日				牛枝肉；毎週月曜日、木曜日						
	項目	上場頭数		卸売価格(枝肉1kg当たり単価・円)				屠畜頭数			
畜種	頭数	平均重量(kg)	極上	上	中	並	外	平均	豚	牛	
豚	14,270.0	80.0	475	443	416	378	347	407	28,210	879.5	
牛	頭数	平均重量(kg)	5	4	3	2	1	平均単価(円)			
和牛	A	302	498.4	2,837	2,594	2,261	1,296	-	2,637		
	B	21		2,643	2,356	2,104	1,134	575			
	C	9		-	-	-	796	497			
乳牛	A	-	301.3	-	-	-	-	-	509		
	B	5		-	-	-	617	621			
	C	149		-	-	-	585	469			
交雑牛	A	25	500.0	2,216	1,822	1,672	1,464	-	1,587		
	B	99		-	1,785	1,609	1,325	-			
	C	12		-	-	1,531	858	-			

肉用子牛生産者補給金・肉用牛繁殖経営支援事業発動状況

平成30年度第3四半期(平成30年10~12月)

○肉用子牛生産者補給金制度

(単位：円/頭)

区分	黒毛和種	褐毛和種	その他の肉専用種	乳用種	交雑種
保証基準価格	341,000	311,000	222,000	141,000	216,000
合理化目標価格	284,000	261,000	151,000	98,000	158,000
平均売買価格	781,800	573,600	332,900	266,100	441,400
補給金単価	-	-	-	-	-

○肉用牛繁殖経営支援事業

(単位：円/頭)

区分	黒毛和種	褐毛和種	その他の肉専用種
保証基準価格	341,000	311,000	222,000
平均売買価格	781,800	573,600	332,900
発動基準	460,000	420,000	300,000
支援交付金単価	-	-	-

平成30年12月市況

子豚市場

全農茨城県本部 子豚市場

開催日	区分	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)	平均体重(kg)
12	一般子豚	16	17,928	17,928	17,928	50
	ベビー豚	297	17,712	15,444	16,804	35
26	一般子豚	0				0
	ベビー豚	317	19,008	5,616	15,703	35

牛市場

全農茨城県本部 家畜市場

開催日	畜種	性別	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)	平均体重(kg)	kg当たり単価(円)
14	和牛	♀	69	996,840	286,200	747,485	283	2,644
		♂	0					
		去計	110	1,192,320	614,520	861,683	306	2,817
	経産	20	710,640	149,040	389,502	-	-	
F1	♀	0						
	♂	0						
	去計	0						

種豚オークション

全農茨城県本部 子豚市場

開催日	区分	L		W		D		LW	WL
		♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♀
	入場頭数	開催なし							
	成立頭数								
	最高(円)								
	最低(円)								
	平均(円)								

大子町畜産農業協同組合 大子家畜市場

開催日	畜種	性別	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)	平均体重(kg)	kg当たり単価(円)
	和牛	♀ ♂ 去計	開催なし					

食肉地方卸売市場

株茨城県中央食肉公社

開催日	豚枝肉：日曜、祭日を除く毎日							牛枝肉：毎週月曜日、木曜日				
項目	上場頭数		卸売価格(枝肉1kg当たり単価・円)								屠畜頭数	
	頭数	平均重量(kg)	極上	上	中	並	外	平均	豚	牛		
豚	14,767.0	78.1	438	429	406	365	315	392	26,918	865.0		
牛	頭数	平均重量(kg)	5	4	3	2	1	平均単価(円)				
和牛	A	326	496.3	2,968	2,664	2,395	1,769	-	2,765			
	B	14		357	-	2,524	1,775	1,184				-
	C	17		-	1,696	-	640	494				
乳牛	A	-	288.4	-	-	-	-	-	476			
	B	1		107	-	-	-	1,080				-
	C	106		-	-	-	602	432				
交雑牛	A	13	524.8	-	1,717	1,758	1,112	-	1,653			
	B	80		106	2,021	1,796	1,713	1,513				-
	C	13		-	1,816	1,620	1,150	-				

茨城県家畜商業協同組合 茨城県中央家畜市場

開催日	畜種	年齢	性別	5, 9, 15, 25		
				頭数	最高(円)	最低(円)
乳牛	スモール	♀ ♂ 去計	4	140,400	5,400	72,360
			136	184,680	1,080	129,401
			0			
F1	スモール	♀ ♂ 去計	61	285,120	43,200	223,365
			67	397,440	183,600	298,838
			0			
子牛	♀ ♂ 去計	1	216,000	216,000	216,000	
		0				
		1	216,000	216,000	216,000	
黒毛和種	スモール	♀ ♂ 去計	0			
			1	632,880	632,880	632,880
			0			
	子牛	♀ ♂ 去計	1	508,680	508,680	508,680
			1	706,320	706,320	706,320
			0			
3歳以上	♀ 去計	2	706,320	508,680	607,500	
		1	828,360	828,360	828,360	
			0			
			1	828,360	828,360	828,360

牛マルキン発動状況

期	支払方式	肉専用種	交雑種	乳用種
平成30年10月	概算払単価	-	21,700	30,300

(注)

平成26年4月期の補填金交付から、四半期の最終月以外については、補填金を概算払いし、各四半期の最終月に確定単価で精算払いをすることになりました。(配合飼料価格安定制度の見直しによる生産費用算出の関係によるもの。)

また、平成26年4月から消費税抜きで算定されています。

○茨城県において補填金交付額に見合う財源を確保できない場合、補填金単価を減額することがあります。

◎算定基礎の詳しい情報は、(独)農畜産業振興機構HP (<http://www.alic.go.jp>) をご覧ください。

第20回 県南肉用牛枝肉共励会が開催されました

茨城県県南農林事務所 振興・環境室 農業振興課

平成30年11月19日(月)～22日(木)、県南肉用牛経営技術研究会による第20回県南肉用牛枝肉共励会が、株式会社茨城県中央食肉公社において開催されました。

当研究会は、つくば市や石岡市、稲敷市など、県南地域の肥育牛生産者22名から成り、研修会や共励会の開催を通して肥育技術の研鑽に努めています。共励会は、その成果を競う場であり、今年は、丹精こめて育てられた和牛20頭(去勢18頭、雌2頭)が出品されました。

格付の結果は、出品された枝肉の全てが歩留等級Aであり、A-4が3頭、A-5が14頭と、出品牛の85%が常陸牛に該当するという素晴らしいものでした。

去勢牛全体をみると、枝肉総重量は687.0～456.0kgで、平均重量は522.5kgと昨年と同様でした。その他の平均値は、胸最長筋面積は67.1cm²、ばらの厚さは8.8cm、皮下脂肪の厚さは2.7cm、B.M.S.はNo.8.7となりました。

以上を踏まえ、厳正な審査の結果、最優秀賞には石岡市の島田清氏の枝肉が選ばれました。枝肉総重量は528.0kg、胸最長筋面積は83cm²、ばらの厚さは10.3cm、皮下脂肪の厚さは2.4cm、B.M.S.はNo.12と、「肉称・体型・モモ貫けとも大変優れ、特にバランスの良い枝肉」と高く評価を得ました。

今回、記念すべき20回目の共励会を開催することができたのは、関係者の皆さまの御理解と御協力の賜と感謝しております。子牛価格や飼料価格の高騰など、肥育牛生産をとりまく環

境は大変厳しい状況が続いていますが、当研究会の活動を通して、今後も地域の肉用牛生産振興を図っていきたくて考えておりますので、引き続き、皆様の御協力をいただきますようお願いいたします。

第20回 県南肉用牛枝肉共励会結果

褒賞	受賞者	性別	父	格付	単価 (円/kg)
最優秀賞	島田 清	去勢	藤平茂	A-5	3,100
優秀賞	酒井 克己	去勢	百合茂	A-5	3,005
	成島 克己	去勢	三国桜	A-5	2,789



▲最優秀賞の島田氏へ、常陸牛振興協会より賞状を授与

▼(公社)日本食肉格付協会からの説明に耳を傾ける出品者



セリ前の会長挨拶

茨城県が誇る、霜降り牛肉

常陸牛

ひたちぎゅう

茨城県銘柄鶏

奥久慈しゃも

奥久慈しゃも生産組合

〒319-3523 茨城県久慈郡大子町袋田3723
TEL / 0295-72-4250
FAX / 0295-72-2944

いばらきの高品質豚肉

ローズポーク

茨城県銘柄豚振興会

事務局
〒311-3155 東茨城県茨城町下土師1950
全国農業協同組合連合会 茨城県本部内
TEL / 029-292-8004
FAX / 029-292-7743

公益社団法人 茨城県畜産協会

TEL / 029(231)7501 FAX / 029(222)2032

- 当協会に対する意見・要望
Eメール info@ibaraki.lin.gr.jp
- 本紙への掲載「催事・各種情報」
Eメール chikusan@ibachiku.com
- ホームページ
http://ibaraki.lin.gr.jp